

働き易い職場と入居者様の満足 ～腰痛予防の取り組みを通して～

◆うみべの家では職員の腰痛予防対策の取り組みを行っています。

介護業界で人材不足が課題となっておりますが、職員の年齢や性別を問わず継続して働くことができる環境づくりが必要となっております。腰痛予防対策に取り組むことは、職員の負担軽減だけでなく、入居者にとっての安全・安心な移乗等にも繋がります。



↑↑↑

リフト使用の様子を含む

うみべの家PR動画 QRコード

※スマートフォンのカメラなどで読み取って下さい。



入浴用 天井走行リフト

(入浴)

うみべの家では機械浴（ストレッチャー浴、シャワー浴）ではなく、一般的な浴槽と天井走行リフトを使用しての入浴を実施しております。

しっかりとコミュニケーションをとりながら職員と1対1での入浴することを基本とし、その方に合わせた入浴方法を検討、実施しています。

(排泄・移乗)

スタンディングマシンを活用することで、介護士が抱えるように立位を介助する方法よりも、介護士、入居者様双方の身体的負担を減らすことができます。また、トイレでの排泄を可能な限り継続することに繋がります。

ベッド⇄車いす間の移乗には、床走行リフトを活用しています。



スタンディングマシン



床走行リフト

画像引用元 アビリティーズケアネット
<https://www.abilities.jp/>

特別養護老人ホームはADLの低下等によって在宅での生活が難しくなった方が入居される生活施設です。施設に入居するにあたって、ある種の諦めの気持ちであったり、悲観的な固定観念を持たれる方もいらっしゃると思います。うみべの家入居後もご本人やご家族の意向を伺いながら、それまでの日常生活を継続できるよう努めていきます。

リフト類の活用は、そういった生活を実現するための手段・選択肢の1つだと思っています。

※次号のうみべの家だよりでは、レクリエーションや各種行事について（感染症対策をとりながら実施している現状等）をご紹介します。お待ちしております。